

2025年度 森づくり年間計画

●はじめに

洲崎村民の森では、[【洲崎国有林地森林整備マスタープラン】](#)に則った森林整備を行っています。特に、管理範囲北部は、約 300 m²づつに区画を分割し、「より効果的な自然再生手法の試験地」や「ESD(持続可能な開発のための教育)の場」としても活用しています。

TWR 森づくりは、このマスタープランをベースに、小笠原村立小笠原小学校 4 年生の総合学習プログラムと連動する形で年間計画が策定しています。総合学習プログラムでは、1 学期の「小笠原の植物博士になろう！」で、在来種の特性や種類、外来種がもたらす課題について学びます。2 学期には、各自が興味を持った植物の特徴について調査し発表を行います。続く 3 学期には、「森をつくろう！」をテーマに、9 か月間の学びをふまえて森林再生の基礎知識や課題、目指すべき方向性について学び、翌年度の年間作業計画(300 m²)を策定します。

なお、本年間計画は、『2024年度 小学校 4 年生 22名』が作成した年間計画を TWR 事務局が取りまとめたものです。

●2024年度の森づくり計画と成果

2023年度の 4 年生が計画した 2024年度エリア(300 m²)において、2024年 4 月から 2025 年 3 月までの間に、合計9回の TWR 森づくり活動を実施しました。「海側」と「山側」の2区画に分け、海側エリアでは、防風効果の維持を重視し、外来種の駆除よりも植栽密度を優先。一方、山側エリアでは、林床の平均照度が 40%を超えないようにするため、外来種の「伐根間引き駆除」を優先し、伐根跡には固有種や在来種を植栽する計画としました。

両エリアともにギンネムを中心とした植物相であったため、林冠に大きな影響を及ぼしにくいギンネムを中心に伐根を行いました。アカギ、シマグワについては、林冠の状況を見ながら伐根を行いました。4月には、林内下層に繁茂する外来種チトセランの伐根駆除を実施し、その後は主にシマグワとギンネムの間引き駆除を行いました。植栽については、オガサワラオオコウモリの餌木となるモモタマナやタコノキ、シャリンバイを中心に実施。特に海岸側斜面上部では、防風林機能の早期代替と、成長後の法面保護機能の強化のため、クサトベラを中心に高木や中低木をバランス良く密植しました。

また、エリア内には新たに横断歩行路を整備しました。活動参加者の増加に伴うエリア内の踏圧を抑制するとともに、植栽地や林内環境を眺めながら散策できるようにすることを目的とした道づくりです。

加えて、当初の計画には含まれていなかったものの、5 月にギンネムの実生が大量発生した際には、未就学児を中心にその引き抜きをおこないました。定期的なメンテナンスを実施することで、林内におけるギンネム実生の下層への影響を最小限に抑えることができました。

昨年度の「風の草刈り試験」を実施した地点では、2024 年度も 3 か月に 1 回程度の頻度でメンテナンスを行いました。2024 年度の開始時点では、下層植生として外来種が繁茂していましたが、現在ではウラジロエノキ林の林床を中心に、外来種(特にギンネム)の下層植生が制御されつつあります。また、ウラジロエノキ林の成長に合わせて間引きを実施し、過密状態とならないよう調整を行いました。

天候不良や感染症の影響により、3 回の活動中止を余儀なくされましたが、結果として、外来種 327 本(アカギ 29 本、ギンネム 206 本、シマグワ 92 本)のうち、124本(アカギ 8 本、ギンネム 94 本、シマグワ 22 本)の伐根を完了しました。あわせて 180 本の植栽も実施しました。植栽については、海側エリアではクサトベラとタコノキを中心に密度を高く植栽し、山側エリアでは歩道周辺を中心にヤロードやノヤシを植栽しました。

これにより、エリア内の外来種率は 100%から 53%まで低下し、2024 年度計画で定められた伐根本数・植栽本数の目標は、いずれも達成されました。



抜根の様子



植栽の様子



横断歩行路

植栽した植物も順調に生育しており、2024 年度エリアでは、まだ大きな生育は見られないものの、2023 年度エリアでは、植栽時に高さ 30 cm だったモモタマナが、現在では 2m にまで生育しています。



2023 年 6 月植栽のモモタマナも順調に生育。左は植栽直後、中は 2024 年 4 月、右は 2025 年 3 月に撮影

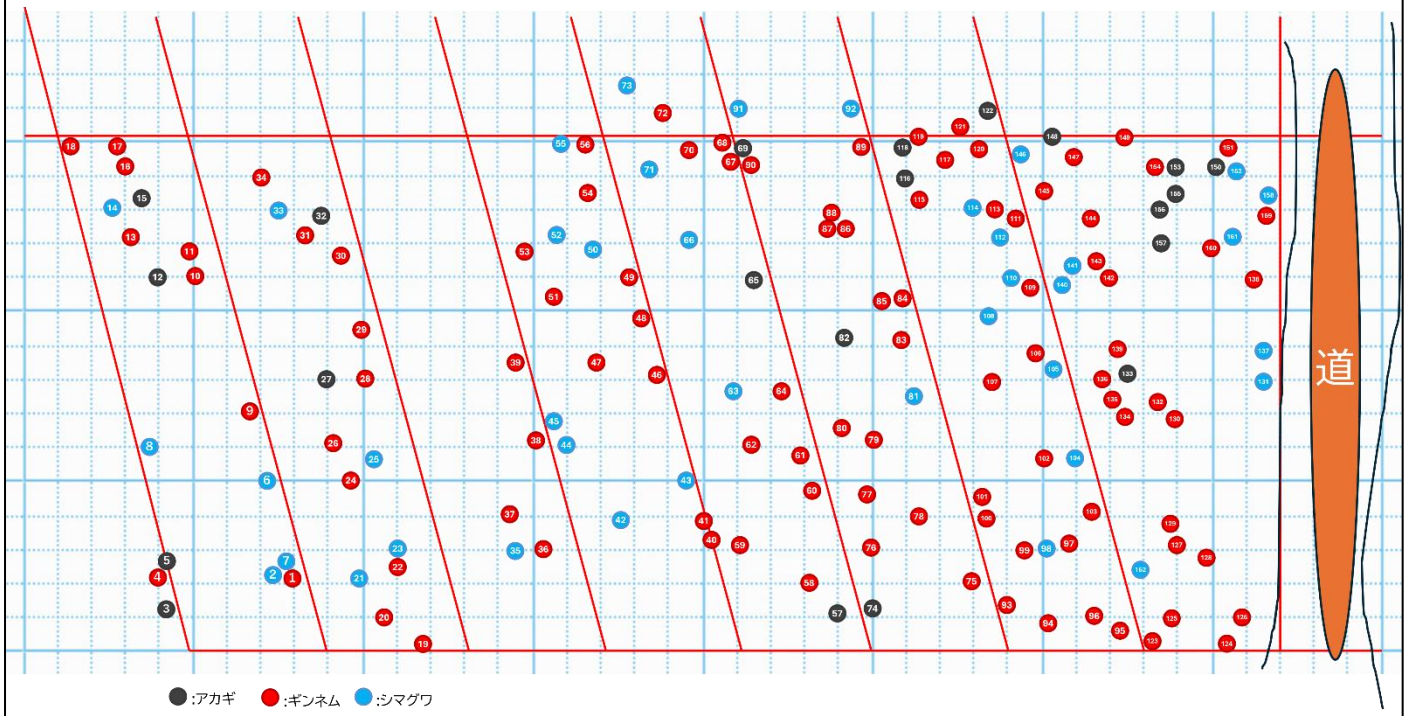


2024 年度エリアの作業前（左 2024 年 2 月撮影）と作業後（右 2025 年 3 月撮影）

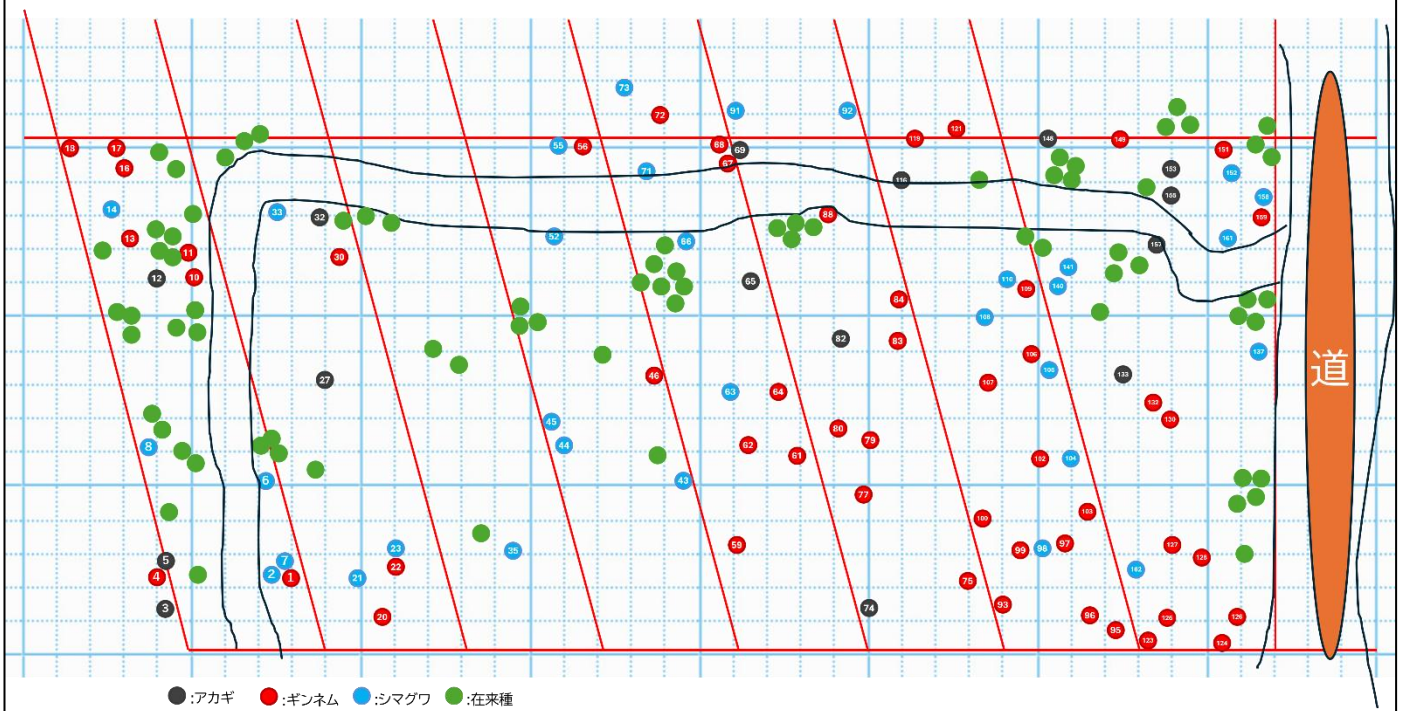


風の草刈りエリアの様子（左 2024 年 4 月撮影、右 2025 年 3 月撮影）
下層の外来種が抑制された。また、ウラジロエノキも順調に生育している

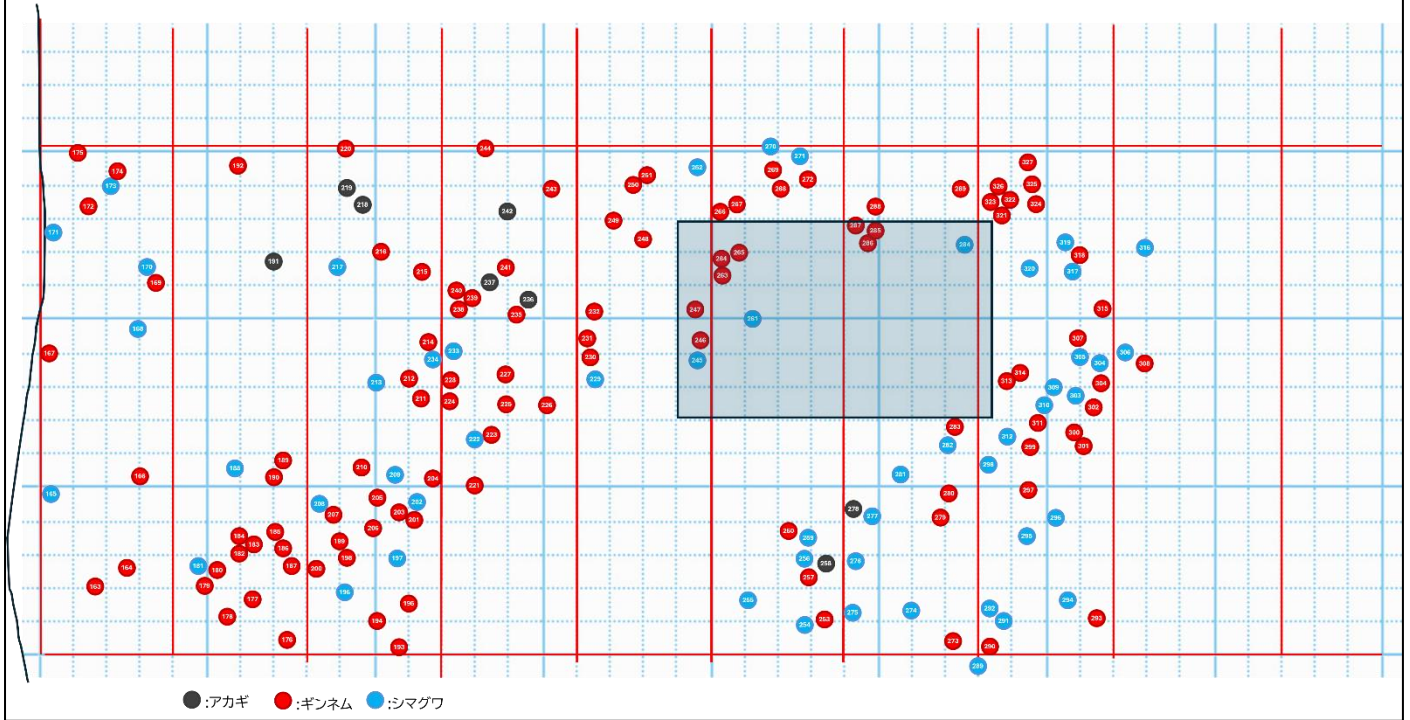
海側 森づくり前



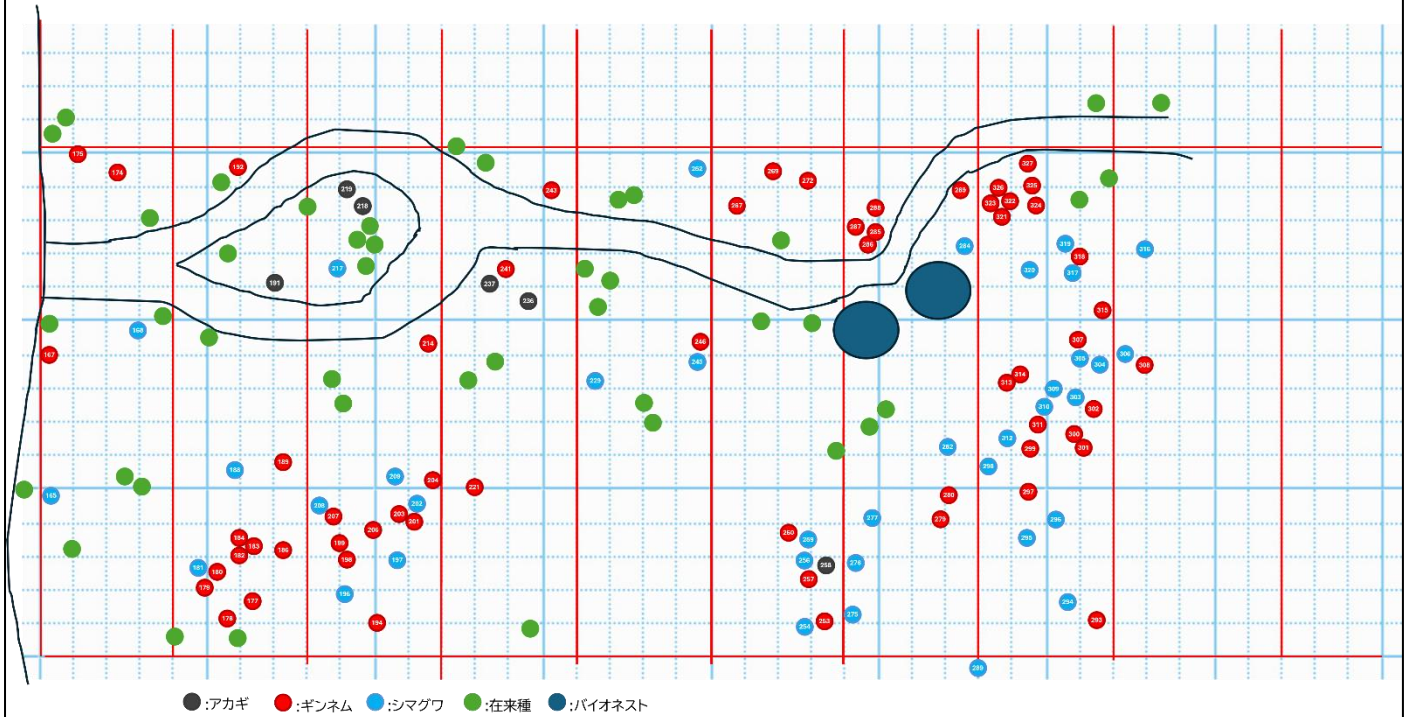
海側 森づくり後



山側 森づくり前

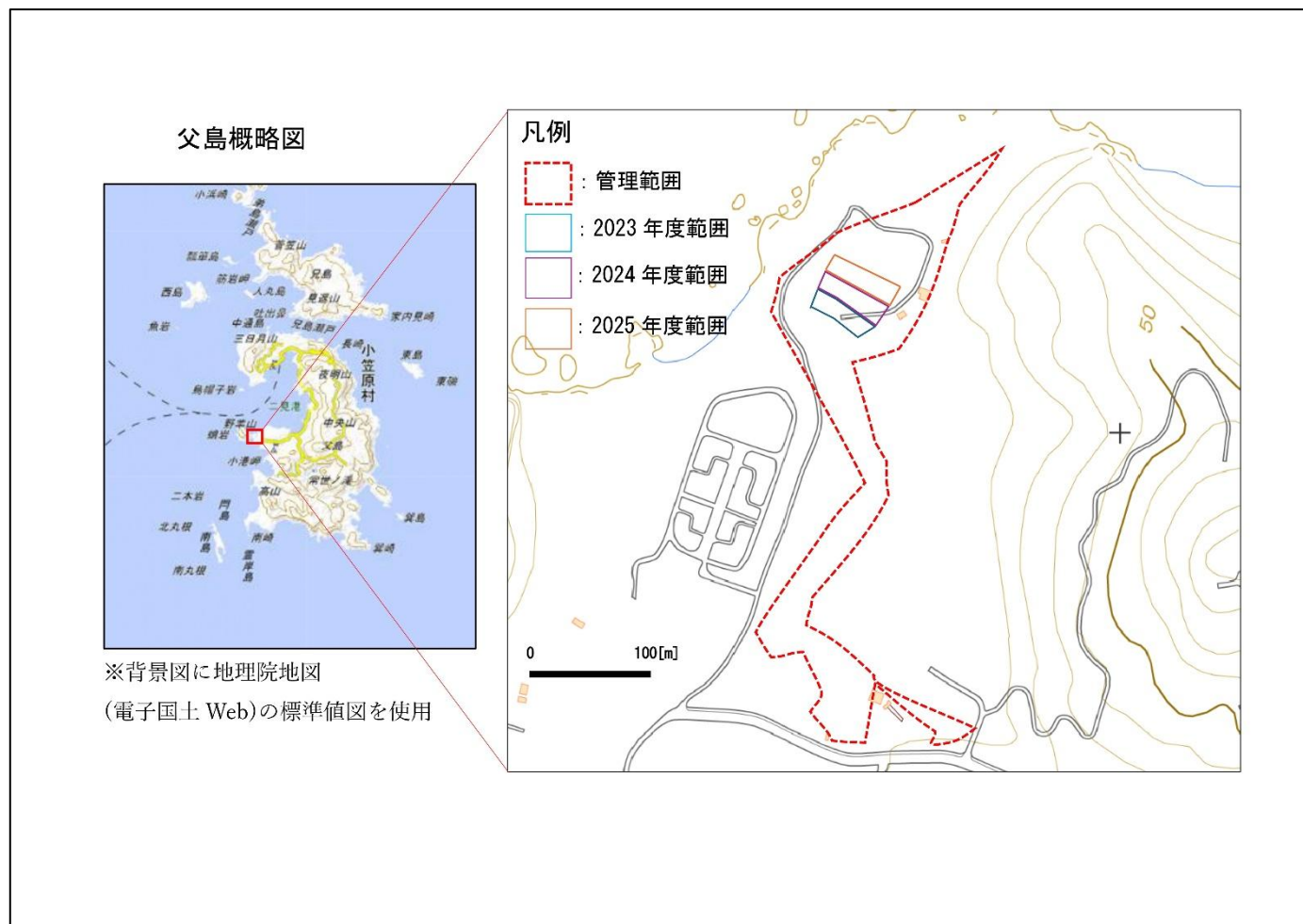


山側 森づくり後



●2025年度エリアの位置図

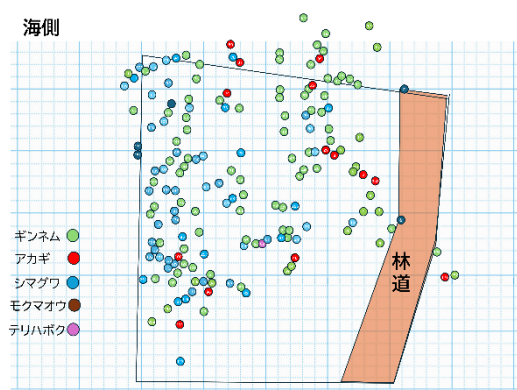
2025 年度エリアは昨年度エリアに隣接した 300 m²です。



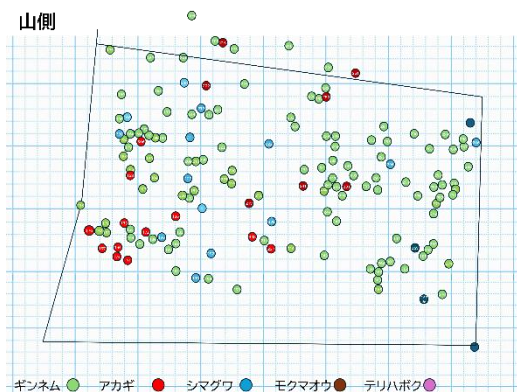
●2025年度エリアの現状

2025年度エリアには、過去の年度では見られなかったモクマオウが 7 本生育しており、いずれも幹回り1m以上に達しています。また、現在生育している樹木は 310 本あり、その中にはテリハボク(タマナ)が 1 本生育しています。

植物相は、昨年度エリアと同様にギンネムを中心に構成されており、アカギやシマグワが林冠を広く覆っている状態です。ギンネムやシマグワは密に生育しており、在来種林への転換を目指すには、適切な管理が必要です。



海側エリアの植栽分布 (左) とエリア内の生育状況 (中央)、林冠状況 (右)



山側エリアの植栽分布（左）とエリア内の生育状況（中央）、林冠状況（右）



山側エリアに生育するモクマオウ



海側エリアに生育するテリハボク（タマナ）

●2025年度エリアの方針

今年度の4年生が立案した方針目標は、「人も生き物も過ごしやすい在来種の森にしよう！」です。

昨年度エリアと同様に、林床照度に配慮した「外来種の間引き駆除」および「植栽」、踏圧に配慮した道づくりを行います。

加えて、オガサワラオコウモリへの配慮として、その餌となる樹種を中心に植栽を実施するほか、アカガシラカラスバトなどの鳥類が利用できる水飲み場の新設も予定しています。

植栽予定の樹種については、昨年度と同様の方針に基づき選定・植え付けを行う予定です。



●2025年度エリア作業計画

林床照度や風通しに配慮した外来種の間引き・抜根駆除および植栽手法については、昨年度の方針を踏襲します。傾斜している樹木や低木を優先的に伐根することで、林冠に大きな影響を与えることなく、景観の向上と植栽スペースの確保を図ります。また、駆除した樹木の枝葉を活用し、昆虫をはじめとする分解者の生息環境を増やすためのバイオネストを2基設置する予定です。

【外来種間引き伐根駆除】

2025年度エリアは、これまでのエリアと比べて高密度に生育しているのが特徴です。前述の方針に沿って、まずは傾斜している樹木と低木を優先的に間引き伐根を行います。その後は、高密度となっているエリアの伐根を段階的に進めることで、樹木の密度低下と林床照度の調整を同時に図っていきます。



高密度エリアの一部

【植栽】

植栽は基本的に伐根跡へ行いますが、エリア内にはすでに低密度のエリアが存在しているため、そうした箇所にも在来種の植栽を実施します。海側エリアについては、これまでと同様に密植を行い、山側エリアではバランスの取れた配置で植栽を行います。

植栽する樹種は、オガサワラオオコウモリの餌となるモモタマナやタコノキを中心に、アカガシラカラスバトなどの鳥類の餌となるハスノハギリなども多めに取り入れ、飛来する在来動物の増加も目指します。



昨年度エリアの植栽例

【バイオネスト設置・補強】

従来のバイオネストと同様に、伐根した樹木の枝葉を活用したバイオネストづくりを実施します。また、過去に設置したバイオネストの一部に強風などによる劣化が見られるため、今年度はその補強作業も併せて実施します。



昨年度設置したバイオネスト

【横断歩行路設置】

昨年度エリア同様に、活動参加者の増加による踏圧の抑制や植栽・林内環境を眺めながら散策できる場の創出を目的として、横断歩行路を設置します。

また、横断路沿いにはオオハマオモトやクサトベラなどの低木を植栽することで、林内の見通しを確保した景観の形成と、動線の明確化による踏圧の集中・軽減を同時に図る空間創出を行います。



昨年度エリアの横断歩行路

【野鳥の水飲み場づくり】

「村民の森」では、アカガシラカラスバトをはじめとする多くの在来鳥類が飛来しています。今年度は、4年生のアイデアとして、林内に鳥類が使える水飲み場を新設します。水飲み場の作成には、伐根駆除を行った樹木などを活用し、四半期ごとに実施する体験型イベントの木工体験として、参加者と作成・設置を行う予定です。

設置場所については、エリア内に自生するテリハボクをシンボルツリーとして生かすため、その周辺に設置します。



村民の森内に飛来するアカガシラカラスバト

●年間スケジュール

以下のスケジュールで毎月の森づくり活動を実施します。

2025年 森づくり活動年間スケジュール										年度目標	人も生き物も過ごしやすい在来種の森にしよう！				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
引き抜き	海側	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	8本引き抜き	7本引き抜き	8本引き抜き	7本引き抜き	5本引き抜き		
	山側	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	5本引き抜き	7本引き抜き	8本引き抜き	8本引き抜き	8本引き抜き	5本引き抜き		
植栽	海側	クサトベラ5本 モモタマナ5本	オオハマボウ5本 シャリンバイ10本	モモタマナ5本			ハスノハギリ5本 モモタマナ5本	タコノキ5本 クサトベラ5本	シャリンバイ5本 オオハマボウ10本	ハスノハギリ10本	モモタマナ5本	モモタマナ5本	クサトベラ10本 テリハバク5本		
	山側	タコノキ5本	テリハバク5本 ヒメツバキ5本	タコノキ5本 アカテツ5本			モクダチバナ5本	タコノキ5本	タコノキ5本	タコノキ5本	ノヤシ10本	ヤロード10本			
その他		林床整備	バイオネスト づくり	道づくり	水飲み場 設置		道づくり	林床整備	道補修	バイオネスト 補修		バイオネスト 補修			
	その他			水飲み場 づくり(木工)											
注意点		・伐根は傾斜した樹木、林冠に影響を与えない低木から行う。 ・植栽は海側を密植気味に、山側はバランズよく植栽を行う。 ・バイオネストは海側山側で計2～3個の設置を予定。昨年度以前のもので老朽化しているものに関しては補修を行う。 ※参加者の人数などによって作業内容を変更する場合があります。													
植栽予定樹種		・モモタマナ25本 ・アカテツ5本 ・テリハバク10本 ・タコノキ25本 ・モクダチバナ5本 ・ノヤシ10本 ・オオハマボウ15本 ・シャリンバイ15本 ・ヤロード10本 ・クサトベラ20本 ・ハスノハギリ15本 ・ヒメツバキ5本 ※植栽種、植栽数は状況を見ながら変更する場合があります。													